

11月7日 創世記15章1～16節 今日の説教から  
説教題：「恵みの預言、災いの預言」

今日の聖書箇所では、アブラハムが神様の言葉を幻の中で受け取る様子が記されています。アブラハムは、ある日突然神様の言葉を受けて、自分の生まれ故郷を離れて神様の示す土地へと向かうことになりました。大洪水を逃れたノアの子孫であるアブラハムは一族の長であったのですが、75歳の時点で子供がいませんでした。だからこそ、神様から「カナンの土地に行きなさい」という命令を受けたものの、その結果何を与えたとしてもアブラハムには大きな喜びにはつながりません。神様から「報いが大きい」と言わましたが、それがお金であれ土地であれ、いまアブラハムを豊かにすることは出来たとしても、跡取りがいない以上それは一瞬の喜びにしか過ぎないものです。

しかし、そのように財宝や土地を貰っても仕方がない、と語るアブラハムの最も欲しているものを神様は知っていて、それを信仰の報いとしてアブラハムに与えます。「跡継ぎが必ず生まれる」ということ、その子孫たちの数を実際の星空を示して、「これほど多くの子孫たちへと増えていく」という事を示しました。すでに自分が75歳を超えた高齢であること、妻に今まで子供ができてこなかったこと、という否定する材料はいくつでもある中で、それでもアブラハムは神様の言葉を信じました。決して信じることが出来ないような、しかし大きな「恵みの預言」に対して、アブラハムは「信じる」という姿勢を示しました。その姿勢に対して神様は「義である」と認めたのです。

そして、神様はア布拉ハムに対して約束をします。「いまあなたがいるこのカナンの土地を与える。それを子孫たちに継がせる」という言葉をアブラハムに示しました。その契約のしるしとして、アブラハムは動物を二つに引き裂きました。これは当時の契約の作法であるそうで、私たちが一般的に「契約を結ぶ」と言うように、当時のヘブライ語の表現としては、「契約を切る」と表現するそうです。私たちはこの行動が契約に関するものであることを知った時に、イエス様の受難から十字架にかけて、そこに確かに神様が現れていることを知ることが出来ます。

マタイによる福音書27章51～52節では、イエス様が息を引き取った瞬間に「神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った」と記されています。まさにあの瞬間、二つに裂かれた垂れ幕によって神様が人間の罪を赦すという約束が実現したことが、イエス様の十字架を見上げる人々の前で示されました。その引き裂く行動は、私たちが日々受ける「聖餐」にも表れています。マタイ福音書26章に記されている最後の晚餐、そこでイエス様が語った「パンを引き裂く」「引き裂かれたわたしの体」という言葉にも、神様との「約束を思い返す」と言う大事な意味が現れています。私たちが日々受ける引き裂かれたパンは、イエス様の十字架によって神様の救いの約束が成就されたことを私たちが思い起こし、それが自分たちに起きることを、イエス様の言葉が私たちに向けられていることを知ることが出来るのです。

私たちは、神様が必ず約束をかなえてくれる方であることを、旧約聖書の様々な箇所から教えられています。アブラハムになされた約束がモーセの後に成就したこと、イエス様の教える救いの約束が、十字架の上で確かに成就したこと、よく知っています。私たちの神様は、私たちの事を確かに愛してくれていて、私たちに「誠実」な方です。その神様の愛と誠実さに押し出されて、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

## 今日の説教箇所：創世記 15 章 1～16 節

- 1:これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」アブラムは言葉をついた。

「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」見よ、主の言葉があった。「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。
- 7:主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」主は言われた。「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのもとに持て来なさい。」アブラムはそれらのものをみな持て来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。はげ鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、アブラムは追い払った。
- 12:日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。主はアブラムに言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隸として仕え、苦しめられるであろう。しかしわたしは、彼らが奴隸として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。あなた自身は、長寿を全うして葬られ、安らかに先祖のもとに行く。ここに戻って来るのは、四代目の者たちである。それまでは、アモリ人の罪が極みに達しないからである。」